

基本構想等の位置付け、活用イメージ

課題

①文化財の総合的な調査が行われていない
→地域に潜在している未指定文化財の荒廃が進行する恐れ

②人口減少、少子高齢化等により文化財の担い手が減少
→次世代への継承が困難

目的

①篠山の証し（アイデンティティ）の核ともなる文化財の総合的な把握調査を実施する

②文化財の積極的な保存・活用を図り、地域の魅力や誇りの向上を図り、次世代への継承を目指す

③歴史・文化を活かしたまちづくりを進める



平成20年度 事業内容

○委員会の開催(3回)

○文化財、自然等環境把握基礎調査

・指定213件、未指定文化財3,342件の

把握調査・データベース化

○文化財防災基礎調査

・災害履歴調査、ハザードマップと文化財分布図の合成、

土砂災害・水害などの危険性の有無、問題点把握

○資料収集、各種計画等整理

○実績報告書の作成

課題・問題点

- 篠山における原風景の定義づけ
- 調査目的・方法の委員間での共通認識化
各専門分野間をどう関連づけるか
共通テーマの設定
- 構想策定後の具体的な活用イメージ
把握した膨大な文化財の保存活用方策
歴まち法の活用（将来的に活用可能な視点での調査）
財政難→新規事業実施が困難（50%負担できない）
（具体的に何をするのか？何ができるか？）